

6年生『全国学力・学習状況調査』の結果について

4月23日(木)に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が返ってきました。全国学力・学習状況調査は、毎年、各教育委員会や各学校が児童生徒の学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導の改善等に役立てることを目的として実施されています。

本校でも本調査結果を分析し、まとめました。本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえつつ、保護者・地域の皆様の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら一層の指導上の工夫改善に努めます。学校の教育活動に対して支援していただければありがたいと思います。また、それぞれの結果については、本日、封筒に入れて返却しています。お子様と一緒にご確認ください。

〈算数〉

○成果……「測定」領域および条件を読み取る問題の強さ

算数科全体の平均正答率は、傾向として県・全国平均を大きく下回っています。特に「思考・判断・表現」を問う問題の正答率が大きく落ち込んでおり、領域や観点による得意・不得意の差が目立つ結果となりました。

その一方で、「測定」などの領域においては非常に高い定着が見られました。具体的には、「1、5、9 の 3 枚のカードを当てはめてつくることのできる最も大きい数を書く問題」や「条件に合う最も大きい小数を作る問題」、「条件に合う時間を求める問題」、「帯グラフの特徴から割合を読み取る問題」などにおいて、県・全国平均を上回る、あるいは同等の成果が見られました。こうした数値から、基礎的な知識・技能を活用し、示された条件を正確に読み取って解く力には確かな成果が見られます。

●課題……思考力・表現力を問う記述・選択問題、「変化と関係」「データの活用」領域

一方で、自分の考えを言葉や数で記述・説明する問題には大きな課題が残ります。具体的には、「単位量あたりの大きさ(混み具合)の式の意味判断」や「異分母分数の通分による大小判断とその理由の記述」などに課題が見られます。

さらに、割合や情報の読み取り、基礎的な計算スキルにおいても次のような課題が浮き彫りになりました。

- **割合・関係の理解**：「イシガメ 14 匹が動物園全体のカメの 20%に当たるときの全体数を求める問題」や「基準量・比較量の関係の理解」
- **情報の読み取り**：二次元の表から条件に合う数を読み取る問題
- **基礎計算の定着**：「四捨五入」や「小数の引き算」における定着のばらつき

課題克服に向けて取り組んでいきたいこと

今回の結果を踏まえ、今後は「言語化・可視化」を取り入れた授業づくりを一層推進してまいります。単に答えを導き出すだけでなく、「なぜその式になったのか」「どのように考えたか」を図(二重数直線やテープ図など)や言葉で説明させる対話的な学びや記述指導を充実させます。

例えば、割合の問題において「いきなり $14 \div 0.2 = 70$ の公式に当てはめて答えを出す」のではなく、「20%が 14 匹なら、10%は $14 \div 2 = 7$ 、100%の場合は $7 \times 10 = 70$ 匹になる」といったように、公式だけに頼らず段階的な思考を通して筋道を立てて捉える力を育てます。また、課題が残る領域「変化と関係」の克服に向けては、「表・グラフ・式をリンクさせながら、量がどのように変化しているかを視覚的に捉えさせる」ことを意識した授業改善に取り組みます。さらに、基礎学力の底上げを図るため、朝学習や復習ドリルを活用し、小数の計算処理や概数の理解などの基本操作に関する反復学習を継続して行い、確かな土台を築いてまいります。

〈国語〉

○成果……言葉の特徴・使い方に関する基礎力の定着 特定の表現効果や文章構成を読み取る力

国語科全体の平均正答率は、傾向として県・全国平均を大きく下回る傾向にあります。「言葉の特徴や使い方に関する事項」など基礎的な知識面では定着が見られる一方、「思考・判断・表現」や「記述式問題」に課題が残る結果となりました。

一方で、比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができるかどうかを見る問題や筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうか見る問題は、全国平均を大きく上回る成果も見られました。これまで国語科研究で継続してきた「自分の考えをもち、表現する子を目指して」という取り組みの積み上げが感じられる結果となりました。

●課題…集めた情報を活用した記述力・表現力

3つの領域(A「話すこと・聞くこと」、B「書くこと」、C「読むこと」)の全てにおいて全国平均を下回る結果となりました。「知識・技能」の定着以上に、「思考・判断・表現力」の育成が必要です。特に、記述式問題の平均正答率は、全国平均と比較しても大きな課題として浮き彫りになりました。具体的には、「集めた情報を活用して自分の考えが伝わるように書く記述問題」や「自身の経験と結び付けて書く問題」で難しさが見られます。また、情報同士の関係付けや、図などを用いた語句の関係の表し方を理解して活用する問題、文章のつながりを捉える問題など、「情報の扱い方や条件に沿った読み取り」においても改善すべき課題があることが分かりました。

課題克服に向けて取り組んでいきたいこと

今回の課題である「集めた情報を活用した記述力・表現力」の改善を目指し、今後、以下の点に焦点を当てて指導を工夫してまいります。

1 点目は、「文章前後の論理的なつながりを読み解く力の育成」です。文章全体の流れや因果関係を捉えて文を選択・作成する力を養うため、「接続関係の言語化」に取り組みます。具体的には、文と文の間に「なぜなら」「したがって」「しかし」などの言葉を補って読む活動を取り入れ、理由・例示・結果・対比といった文同士の論理的な関係を意識させます。

2 点目は、「情報を目的に応じて抽出し、再構成する表現力の育成」です。収集した情報を自分の主張の「根拠」として効果的に活用する能力を育むため、「目的と情報の紐づけ」を行います。具体例や数値データなど、「何を伝えるための情報か」という記述の目的を明確にしてから、資料から必要な情報を適切に得る力を伸ばしていきます。

加えて、書いた文章を音読し、主語と述語のねじれがないか、前後の文脈が自然につながっているかなどを、セルフチェックやペア対話を通して確かめる「推敲の習慣」の定着にも取り組んでまいります。

【保護者の皆様へのお願い】

調査結果から見えた課題の克服に向け、学校では基礎・基本の確実な定着と、考えを自分の言葉で表現する力の育成に力を注いでまいります。ご家庭におかれましても、以下の点についてご協力をお願いいたします。

【家庭での会話を通じた「思考・表現」の機会づくり】

日頃の生活や宿題の場面で、「どうしてそう思ったの?」「どのように考えたの?」とお子様に問いかけ、自分の考えや理由を言葉や図で説明する機会を意識的に作っていただけますと幸いです。

【中学校進学を見据えた自主学習・学習習慣の確立】

自ら課題を見つけて取り組む「自主学習」の定着を目指しています。基本的な計算や漢字の復習も含め、ご家庭での学習環境の整備と温かいお見守り・お声がけをよろしくお願いいたします。